

森からのお手紙

17号
2026

Topics

森のこよみ
お客様物語 中井善子さん



お一人おひとりの人生が異なるように、お墓の選び方も実にさまざま。

その想いや考えを、お届けします。

お客様物語

第17回

今回のお客様 中井善子さん



埼玉県入間市にお住まいの中井善子さん。森の墓苑を知ったのは、約10年前に掲載された新聞の記事だそうです。

「もともとお墓へのこだわりはなく、なんとなく樹木葬をイメージしていました。記事にあった『森の復元と50年先を描く』というコンセプトにとっても共感し、一般的な樹木葬とは、考え

方が根本的に違うと感じました」

自宅から千葉県の茂原までは距離があり、周りの人からもお墓参りに行くにくいことを心配されましたが、場所へのこだわりもありませんでした。秋川雅史さんが歌う「千の風に乘つて」が2007年にブームになりましたが、それ以前に新

聞記事で詩が紹介された時から、内容に共感を抱いていました。お墓ではなく、『いつも側にいると感じられること』こそが大切だと。

ご主人も生前から樹木葬に賛成していましたが、気になるのは自宅から遠いということ。息子さん、娘さんと現地見学に行きました。

「よくこないいい所探したね」

息子さんからの嬉しい言葉でした。開放感があり、暗いイメージがないということもあって、娘さんも賛成してくれました。その日のうちに場所を決め、植える木も、すでに花を咲かせていたウグイスカグラに決めました。当初、遠方なので体力的に自信がなく、納骨には立ち会わずに送るつもりだったため、見学会から帰るときはこれで見納め、というつもりでした。

「でも、見学会であの風景を見たことで、『今はあんな花が咲いているかな』『緑はこんな様子かな』と、自然と思い浮かべる

ようになりました」。そしてご自身も娘さんも「納骨に行きた

い」という気持ちに変わりました。ご主人はお花を育てるのが好きだったので、娘さんがイメージの近いブーケを用意し、また、ずっと自宅に安置していた愛犬のランちゃんのお骨も一緒に納めました。名前のとおり、よく走るパピヨンでした。ご主人がいつもお散歩に連れていつていたので、「向こうでもお散歩しているかな」と思えるそうです。

納骨の日は、「スタッフの方が、本当に家族のように温かく接してくれました。だから寂しくなかったし、ここにいて良かったと思えました」と善子さん。

「お友達からは、よく『遠いね』と言われますが、実際はそんなに頻繁に行く場所でもありませんよね。この『森の墓苑』をつくってくれたことに感謝しています」

これからも善子さんの心には、ご主人の笑顔やランちゃんが元気に走る姿、そして季節ごとに変わる墓苑の様子が折に触れて浮かぶことでしょう。

森からのお手紙 17号 2026 発行：(公財)日本生態系協会

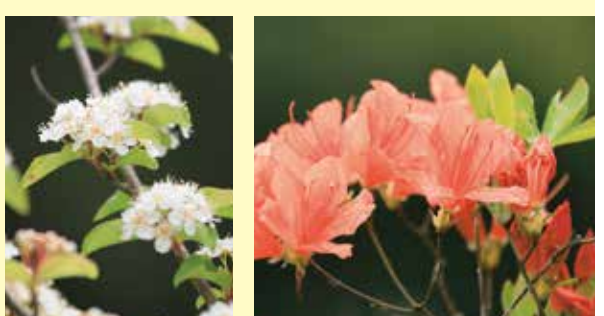


森の墓苑
自然のなかに眠り森を育てる

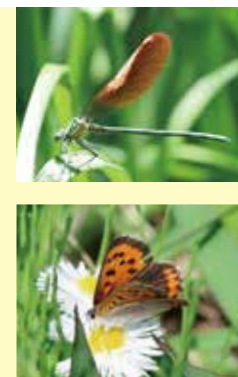
(公財)日本生態系協会 森の墓苑東京事務所
〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-30-20音羽ビル
電話 0120-901-580 (9:00 ~ 17:00)

www.morinoboen.org





植樹草会



ワークショップ



放流



観察会



川の清掃



お盆・お彼岸 8月13日(木)～8月16日(日)、9月19日(土)～9月27日(日)は、毎日開苑

近隣の川の清掃

苑内で自然保全実習を行っている専門学校の学生たちが地域に貢献したいと、森の墓苑の近くを流れる川で清掃を行いました。川に積もった流木や竹、ごみなどを丁寧に回収し、生きものがすみやすい環境づくりに取り組みました。作業の間には、水辺にくらす生きものの調査、観察が行われ、川の状態を知る学びの時間になりました。地域の自然を未来に残していくためには、森だけでなく周辺の水辺環境とあわせて守っていくことが重要です。

環境省で絶滅危惧種に指定されているトウキョウサンショウウオ。その個体数を維持していくために、毎年、苑内の環境整備に取り組んでいる東京ECO動物海洋専門学校が、卵を保護して2～4cmに育てた250匹を地域の方と元の池に放流しました。学生たちは、毎日水槽の水温を苑内の池と同じ温度に保ち、個体数の密度や餌やりなど生息地に近い環境にする工夫を行い、例年よりも多くの幼体を育てることができました。今後も、生きものたちが安心して暮らせる環境づくりを、続けていきます。

トウキョウサンショウウオの放流

今年で10回目となる森と草はらづくりは、やわらかな陽ざしに包まれ、ウグイスの声が響く心地よい森の中、例年を上回る多くの方にご参加いただきました。生きもの調査の専門職員による人気の観察会では、草花の香りや生きものの賑やかな様子を楽しみながら苑内を散策。四季を彩るゆたかな森になるようお願いを込めて、地域に自生する木々の苗木を植え、チカラシバなどの野草の種もまきました。地元食材のお弁当を味わったあとは、木製の「輪挿しとフォトフレーム」づくりを体験。苔やどんぐりを使い、個性が光る素敵な作品ができました。

植樹草会2026

◆見学やお墓参りについて◆ご来苑の際は、スタッフ不在の場合がありますので、前日までにご連絡ください。
◆出張説明◆ご自宅や団体・企業での説明会も承りますので、ご依頼ください。
開苑時間 10～16時 月曜日(月曜日が祝祭日の場合は開苑)
お問い合わせ 電話 0120-901-580 (全日9時～17時)